

日毎に春らしさを増す今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。『NEWS LETTER』No.2をお届けします。

<文化財等救済委員会現地本部、4月から尼崎市立地域研究史料館内に移転!!>

3月まで神戸市西区の芸術工科大学に設置されていた文化財等救済委員会現地本部が、4月から尼崎市立地域研究史料館内に移転、4月一杯レスキューを継続する予定です。史料ネットとの連携もますます強化され、共同して救済活動にあたっています。

<各地の被災史料救済活動、大きく進展!!>

No.1発行以後、史料ネットでは5件のレスキューを実施しました。中には新史料の発見という成果もありました。現在、2件のレスキュー予定があり、出勤回数はますます増えそうです。一部の地域では、自治体や地元の研究者と連携した調査活動も始めましたが、事態が明らかになるにつれて「手遅れ」（破棄や売却など）のケースも目立ってきました。後に残念な思いをすることのないよう、他の地域でも積極的なアプローチが必要です。各地の主な救済活動の状況は以下の通りです。

◇明石市

明石市江井ヶ島の元大庄屋・田中源左衛門家から、近世文書5箱と近代の経営帳簿、典籍類・茶器・什器・陶磁器・酒造道具など蔵一杯の歴史資料救出行動を継続中。このレスキューは、明石市文化博物館の要請により文化財等救済委員会が行なったもので、史料ネットのボランティアも現在までに5日間にわたって延べ38人が参加しました。

◇神戸市

地元の歴史研究団体である神戸史学会が、会員に呼びかけて、史料ネットとも協力して被災文化財の調査・救済活動を開始しました。さらに史料ネットでは、神戸大学文学部内に神戸市域の救済行動のセンターを4月10日から開設予定です。

◇西宮市

市文化財課と史料ネットが共同で、3月27日に市内の元大庄屋家文書1軒・庄屋家文書1軒を救済、さらに1軒のレスキュー活動が予定されています。

救済されたうちの1軒は、有名な大庄屋・岡本俊二家文書。市指定の近世文書はすでに被災後いち早く郷土資料館に搬入されていましたが、家屋解体に史料ネットメンバーが立ち合った際、近代の村関係文書が偶然発見され救出されたものです（新聞記事参照）。

◇尼崎市

尼崎市立地域研究史料館では地震後、市内文書所蔵家や寺院・神社計341軒をリストアップし、電話連絡や現地調査・文書発送などにより被災状況を調査中。この結果、現在までに近世近代の村方文書や典籍類、近代の公害反対運動資料など計8件、3,000点以上を緊急引き取り、さらに家屋撤去もしくは家財整理待ちが10軒という状況です。寺院・神社からは、文化財の保全に関する相談も数件寄せられています。

◇伊丹市

施設自体も被災した伊丹市立博物館では、3月にはいって各方面の協力を得て被災史料救済体制を確立、すでに15件あまりの文書や民具を収集もしくは調査しています。博物館の被災史料調査やレスキュー活動には、郷土史家や近隣の自治体史編纂室職員、史料ネットや文化財等救援委員会などが参加・協力しています。

◇宝塚市

3月24日、文化財等救援委員会と史料ネット共同で、妙玄寺所蔵の近世文書・掛軸・仏具等を救出。あわせて掛軸の簡単な調査を行い目録作成。

◇箕面市

箕面市史編さん所では、市内の撤去対象家屋すべてに史料救済の呼びかけ文書を発送、さらに広報誌上でも救済を呼びかけ、数件を引き取っています。

<兵庫県・神戸市・芦屋市に要望書提出>

史料ネットでは、被災資料の救出活動を行うだけでなく、被災地の市民や自治体など関係機関に歴史資料救済保全の重要性を訴えてきました。3月に入り、各自治体の復興計画が発表される中で、復興や再開発に伴う埋蔵文化財破壊の危険という問題が浮上してきました。阪神大震災対策歴史学会連絡会では、考古学関係者・自治体担当者との意見を聞いたうえで、復興都市計画の立案に際して①地域住民の十分な合意と意向のもとに歴史と文化遺産を大切にしたい街づくりを行なうこと②歴史・文化遺産等について関連する諸学界の意見を聴取する場を設けることなどを内容とする要望書を、3月16日神戸市、3月28日兵庫県、同日芦屋市にそれぞれ提出しました（別紙要望書及び新聞記事参照）。

<5・6 歴史と文化をいかす街づくりシンポジウムのお知らせ>

また、復興計画と歴史・文化遺産の問題については、自治体へ要望するだけでなく、史料ネットとしても、5月6日午後1時から尼崎市総合文化センターにおいて「歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」を開催し、関係する学界や団体と意見交換を行うことにしました。詳しい要項は別紙の通りですが、歴史学・埋蔵文化財・環境考古学・建築史・都市計画・NGO文化情報部などの分野からの報告を予定しています。参加希望者は、往復ハガキにて実行委員会事務局（史料ネット）まで申し込んで下さい（別紙要項参照）。

<会計報告－3月末現在>

募金へのご協力ありがとうございます。No.1で報告したように、史料ネットの活動は、すべて募金によってまかなわれており、主にボランティア保険加入料、ボランティアの交通費補助、消耗品などに当てています。3月末現在の募金は、全国から150万円を越える額が寄せられていますが、常駐やレスキューの経費などの支出も80万を越えています。

詳しくは次号で報告する予定です。



神戸市長笹山幸俊殿

阪神大震災対策歴史学会連絡会

代表幹事 奥村 弘



構成団体

大阪歴史学会  
日本史研究会  
大阪歴史科学協議会  
京都民科歴史部会

都市計画の事業化にあたって歴史・文化遺産に配慮を求める要望書

3月14日、神戸市都市計画審議会において被災市街地の再開発・土地区画整理事業を始めとする計画案が審議され、これを承認する答申が市長宛に出されました。これにともない、本日16日の兵庫県都市計画地方審議会の答申を経て、都市復興計画事業が具体化されていくことと考えます。

今回の震災は神戸に未曾有の被害をもたらしました。瞬く間に幾多の命が奪われ、生活の礎が破壊されました。これ以上の悲しみはありません。また震災前の神戸には、数多くの遺跡・近代以降の歴史的建築物、神戸らしい伝統的な町並みがありましたが、今では、そのほとんどが無惨な姿に変わり果ててしまいました。

この地域の人々の生活とその環境は、繰り返し襲う地震や風水害などと闘い、さらには治承寿永の内乱・南北朝の内乱・第二次世界大戦など筆舌に尽くしがたい幾多の悲しみを乗り越え、先人が築き上げてきたものにほかなりません。生き残った私たちは、この事態にあたって、こうした先人の労苦を顧み、またそれを心の糧とすることでこそ、明日に向かって生きる力をもちえるのではないのでしょうか。また、先人が乗り越えてきた歴史そのものを未来へと受け継いでゆくことが、生き残った私たちの責務ではないのでしょうか。

私たちは、新たな神戸を創造するにあたり、広範な地域住民の合意のもとに、先人が築いてきた歴史と文化の遺産を大切にしたい街づくりを目指すべきであると考えます。そのために必要な措置を講じていただいきたく、さしあたり以下の点を要望いたします。

- 一、都市復興事業計画の立案にあたっては、地域住民の十分な合意と意向のもとに、歴史と文化の遺産を大切にしたい街づくりをおこなうよう必要な措置を講じること。
- 一、都市復興事業計画の立案に際しては、歴史・文化遺産等について、関連する諸学界の意見を聴取する場を設けること。
- 一、防災指令3号を段階的に解除し、歴史・文化財関係職員を本来の職場に配置して、歴史と文化の遺産を大切にしたい都市復興計画の事業化を円滑に進めること。

※ 同趣旨の要望書を兵庫県・芦屋市に3月28日、提出しています。

# 文化財配慮の復興を

歴史学会  
連絡会 神戸市に要望書提出

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

95. 3. 18  
神戸  
(神戸、阪神版)

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

## 文化遺産配慮を 都市計画で 研究者発表

神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

サンデー 3/17付

文化遺産に  
配慮を  
神戸市に要望書提出

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

### 文化にも配慮を

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。

神戸 95. 3. 29

被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。被災地の文化財の復興は、歴史学会の調査活動を通じて、神戸市に要望書提出された。





## 〔阪神淡路大震災関連〕「歴史と文化をいかに街づくりシンポジウム」

今回の震災で、歴史・文化遺産はどのような被害をこうむったのか。復興計画の中で歴史・文化遺産の保存・復旧はどのように位置づけられるべきなのか。被災した歴史・文化遺産の調査や救出を行ってきた、あるいは被害の特徴や復興計画について発言を行ってきた学界・団体から、それぞれ報告を行います。

そのうえで、住民・自治体が人間中心の街づくりを目指すとき、歴史・文化にかかわる学界・団体はどのような協力ができるのか。会場に集まった皆さんとも、率直に意見を交えながら、模索するための手がかりをつかむことをめざします。

日時：5月6日（土） 13：00～17：00

場所：尼崎市総合文化センター 7階 第2会議室（100名収容）

内容：① 各分野からの報告（約2時間）

奥村 弘・神戸大学助教授	（史料補）
飯田 貫・関西大学教授	（歴史学）
和田晴吾・立命館大学教授	（埋蔵文化財）
高橋 幸・立命館大学助教授	（環境考古学）
足立裕司・神戸大学助教授	（建築史）
塩崎賢明・神戸大学助教授	（都市計画）
坂本 勇・東京修復保存センター	（NGO文化情報部）

② コメントとディスカッション（約1時間半）

（コメント） 外国の被災都市復興  
景観保存運動の立場から  
住民復興組織の代表 等

主催：歴史シンポ実行委員会

（阪神大震災対策歴史学会連絡会、埋文関係救済連絡会議など）

事務局：歴史資料保全情報ネットワーク（史料ネット）

参加希望者は、往復ハガキに「歴史シンポ参加希望」と明記のうえ、①氏名 ②〒 住所 ③電話番号 ④所属学会・団体等（ない人は「一般」と書いて下さい）を記入して、下記まで申し込んでください。（返信ハガキにも必ず、〒 住所、氏名を記入のこと）

〒660 尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市立地域研究史料館 気付  
歴史資料保全情報ネットワーク  
（電話）06-482-5246 （史料館内）  
（fax）06-482-5244 （同）

史料ネット NEWS LETTER No.2 1995.4.7(金)

編集・発行 歴史資料保全情報ネットワーク

尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市立地域研究史料館内

TEL 06-482-5246 FAX 482-5244

史料救済募金 郵便振替

名義 阪神大震災対策歴史学会連絡会 / □座番号 01090-7-23009